

# スキーオリエンテーリング

## 武者修行レポート その3

武石雄市  
高橋直博  
堀江守弘

心配だ！ 地球の温暖化が確実に進行している。北極圏の冬が暖かく、雪が降らないでスキー大会が中止になる。北欧で修行中のアスリートの報告です。

### フィンランドの森

高橋直博



フィンランドは今年83年ぶりの暖冬と言う事で、私もフィンランド・ロヴァニエミに来て5年、いつもと違う冬を感じています。

降雪量は平年並みか若干多いぐらいですが、本当に温かいです。いつもですと、寒すぎて練習に出られず悩む事が多かったのですが、今年はまだ一度もそういったことで悩んだ事はありません。

ここロヴァニエミに限っては良い事ですが、世界的な地球温暖化を考えるとそう楽観視はしてはいただけませんね。

さて、こちらロヴァニエミでのSKI-0大会にも参加し、来るLeviで行われるスキーO世界選手権へ向け、気持ちも充実してきています。ここロヴァニエミではクロスカントリースキー選手として知られている私ですが、みんな私のSKI-0参戦に驚きを見せ、反面その裏には余裕すら感じさせる口調でこう

言います。『直博はスキーの実力が十分だから将来的に良いSKI-0選手になるかもね』という具合に。

実際に私のSKI-0の成績は、箸にも棒にもかからない状態。私自身試合に参加することは楽しいし、だからといって成績が良いというわけではない。後続の選手に抜かれても、スキーで付いて行くことは全く問題ないけど、正確なルーティングに自信がないため、抜けるけど抜けないジレンマに駆られています。これはクロスカントリースキーの試合では経験した事のない、欲求不満状態です。

既存の事実かもしれませんが、SKI-0は絶対的なクロスカントリースキーの能力と、正確なルーティングが欠かせないということになると思います。両者のバランスが整って、初めて結果に繋がるということになるのでしょうか。

ラップランドの快晴の中、森を自由自在に滑走するのは本当に爽快なものです。SKI-0の友達が、「SKI-0はコースを右に何回、左に何回曲がるかだけ覚えておけば簡単だよ」とアドバイスをしてくれます。

それは私にとって今は嫌味でしかなく、今後さらにラップランドの森で爽快感を得られるよう、「ナオヒコ、賢くなったね」と言われる日を夢見て、ラップランドの森へスキーに毎日出かけたいと思っています。

(高橋直博)

### スウェーデンスキーOレポート

～ シーズン真っ盛り～

堀江守弘



遅くなった堀江守弘

<現状>

スキー王国スウェーデンよりこんにちは、堀江です。と言いたいところなんですが、実は今年のスウェーデン、雪がありません。

過去にないほどの異常気象だそうで、スキーヤーは非常に頭を悩ませています。本来ならば僕が留学している街は1,2mの積雪があるはずなのですが、2月8日現在積雪0cmです。今年日本は逆に大雪と聞いていますので、うらやましいばかりです。

しかし、雪が降らなくても気温が高くても、クロスカントリースキー場では人口雪を駆使してコース作りが行われています。作っては消え、作っては消えの繰り返しで、コンディションも悪く、距離的にも2kmほどしかありませんが、それでもコースを維持しようとする関係者の取り組みには頭が上がりません。

文化の違いなのかもしれませんが、日本の社会もスポーツに対する理解と取り組みがもう少しあってほしいと思います。

<クラブ単位での大会参加>

スウェーデンでは冬のオリエンテー

リングといえばもちろんスキーOです。週末は毎回どこかで大会が開かれます。しかし、残念なことに今シーズは2回ほど大会が中止になりました。理由は雪がなかったからです。

日本では学生は学校単位で大会に参加していますが、こちらは全てクラブ単位です。私は地元のオリエンテリングクラブに所属しました。

私の所属しているクラブでは、大会申し込み、大会への移動、宿泊、食事すべてクラブでまとまって行います。

そもそも、大会の参加費、移動費、宿泊費はクラブが支払ってくれるため、自分が出すお金は大会中の食事分だけです。スウェーデンのクラブ全部がこういうシステムというわけではないようですが、大きなクラブはほとんどこういう仕組みのようです。

選手にとっては非常にありがたい、また競技に打ち込みやすい環境といえます。

#### <スキーOの大会>

実際に12月から大会に参加してみても、それぞれの大会は大規模とは言えません。

しかし、ネットワークトラック(道)の複雑さや、コースの難易度をみると現在の日本よりワンランク上と感じます。さらに競技者の実力はもう1ランク上と感じます。

ジュニアの選手層が厚いことも日本との大きな違いかと思えます。

#### <SKI-WOCの抱負>

私はこの半年間、スキーOに専念するためにスウェーデンに留学しています。

3年前、ブルガリアで開催された世界選手権に参加したときは、競技にかける意気込みが違います。体力、技術全てにおいて段違いです。

スウェーデンには世界のトップと言っても過言ではない選手がいます。

2月上旬までのレースで、トップ比120%台を確実に出せるようになっていきます。3月の世界選手権ではトップ比110%台の滑りも不可能ではありません。

今までの日本人にない活躍を期待していたださい。

(堀江守弘)

## スキーO WOC2005 日本代表選手団

武石雄市



J-Cup 終了後、代表選手を発表する武石監督

本誌が読者の手元に届くころ、フィンランド北部のスキーリゾート地レヴィでスキーオリエンテリング世界選手権大会が白熱した戦いを演じていることでしょう。

レヴィはまさしく北極圏で、サンタクロース観光で有名な北極線上にあるロバニエミから更に北方170kmに位置しています。

ラップランドのまちまちの一つで、夏冬とも様々なアクティビティーが楽しめるので観光客で賑わっている町です。

と、いっても冬は太陽が昇らない時期もあり、その寒さは厳しく3月になってようやく日中の気温が-20℃を下回らない程度になります。(注:スキーOレースは-20℃以下では、スタート時刻を繰り下げ、日時順延又は中止される)スキーオリエンテリング世界選手権としては、最北の地で開催となります。

さて、日本代表選手指定は、1月15-16日山形県民の森をトレインとして、山形市少年自然の家を会場に行われた最終選考会成績の結果を基に、スキーO委員会(委員長、武石雄市)から即日発表された。

指定された選手は、本誌前号で内山孝博氏(OLP兵庫)が予想した概ねの通りとなった。

男子では、IOF ルールの改訂に伴い日本SKI-O競技規則からも今回限りで姿を消すショートディスタンスで三浦裕

司(チームパッシュ)が優勝して代表の権利を獲得したが、勤務先上司の理解が得られず遠征は涙をのみ、ロングディスタンスでは成績上位のものが選考対象を辞退していたため、繰り上がって山田敦史が指定されたことが特異なこととしてあげられる。

女子も、ほぼ予想通りで4人目に産休の白鳥桂子(水篤刈)に代わって同期の高橋美和(水篤刈)が、チャンスとばかりに特訓して指定を獲得した。

今年のチームの特徴は、前述レポートを寄せている高橋直博、堀江守弘の両名が予定通り指定されたことである。

過去にも実績があり、本場(モーラ)のスキーO専門学校に留学して、スキーO本物の技術を磨いている堀江と、スキー技術抜群(平成16年国体優勝)の高橋の加入が、日本チームとして過去にないレベルアップに貢献している。両名には、勿論順位の上昇も期待できるが、特にレース毎にそのトップ比を何処まで肉薄してくれるかに期待しましょう。

女子は今が盛りと油が乗っている酒井佳子、体力・気力も充実しているが日常生活もスキーOに視点を置いて研究・工夫、実践している様は、アスリートとして当然とは言え頭が下がります。

女子リレーメンバーはフットの代表候補である元木友子が遠征を決意したことで近年の最強チームが組めた。順位も念願の一桁台をもぎ取れるでしょう。

#### スキーOWOC日本代表団

団長(総監督) 武石雄市  
オフィシャル 酒井か代子  
男子

元木 悟	(37)	長野県
幸山敏克	(32)	青森県
高橋直博	(30)	山形県
堀江守弘	(23)	山形県
山田敦史	(28)	秋田県

#### 女子

酒井佳子	(33)	秋田県
元木友子	(28)	長野県
植野由香	(24)	北海道
高橋美和	(30)	東京都

ご声援をお願いします。

(武石雄市)